

ニデック株式会社

契約の種類： アニュアルレビュー

日付： 2024年6月13日

担当者：

Akshay Chandrakapure, akshay.chandrakapure@morningstar.com

Tomya Sardana, tomya.sardana@morningstar.com

本アニュアルレビューは、サステナリティクス社が英語で作成した「Annual Review (June 2024)」の参考和訳として、ニデック株式会社が翻訳したものです。

英語版と本参考和訳との間で不一致がある場合は、英語版が優先します。

はじめに

2019年11月及び2021年3月、ニデック株式会社（以下、「ニデック」）¹は、クリーン輸送に関連するプロジェクトへのファイナンスを目的とする第9回、第10回及び第11回無担保グリーンボンド（以下「2019年グリーンボンド」）、ユーロ建無担保グリーンボンド（以下「2021年グリーンボンド」）を発行しました。2024年、ニデックは、2019年グリーンボンド及び2021年グリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクト（以下「選定プロジェクト」）が、日本電産株式会社グリーンボンドフレームワーク（以下「フレームワーク」）²で設定された資金用途のクライテリアやレポートの指標に合致しているかについての評価を、サステナリティクスに委託しました。サステナリティクスは、2019年11月にフレームワークについてセカンドパーティ・オピニオンを提供しています³。本レビューは、2020年11月⁴、2021年11月⁵、2022年6月⁶、2023年6月⁷に行ったサステナリティクスによるレビューに続く、ニデックの2019年グリーンボンドに対する5回目のレビュー、2021年グリーンボンドに対する4回目のレビューとなります。

評価基準

サステナリティクスは、以下の要件について、選定プロジェクトを評価しました。

¹ 2023年4月1日付で、日本電産株式会社からニデック株式会社に社名変更されました

² 日本電産株式会社グリーンボンドフレームワークは、こちらよりご覧いただけます：https://www.nidec.com/en/sustainability/environment/greenbond/-/media/www-nidec-com/sustainability/environment/greenbond/img/Nidec%20Corporation%20Green%20Bond%20Framework_en.pdf

³ サステナリティクス「日本電産株式会社 セカンドパーティ・オピニオン（2019）」は、こちらよりご覧いただけます：<https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bond-second-party-opinion-08112019-english.pdf>

⁴ サステナリティクス「アニュアルレビュー（2020）」は、こちらよりご覧いただけます：<https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bond-annual-review.pdf>

⁵ サステナリティクス「アニュアルレビュー（2021）」は、こちらよりご覧いただけます：[https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bonds-2019-and-2021-annual-review-\(2021\).pdf](https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bonds-2019-and-2021-annual-review-(2021).pdf)

⁶ サステナリティクス「アニュアルレビュー（2022）」は、こちらよりご覧いただけます：[https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bonds-2019-and-2021-annual-review-\(2022\).pdf](https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bonds-2019-and-2021-annual-review-(2022).pdf)

⁷ サステナリティクス「アニュアルレビュー（2023）」は、こちらよりご覧いただけます：[https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bonds-2019-and-green-bond-2021-annual-review-\(2023\).pdf](https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nidec-corporation-green-bonds-2019-and-green-bond-2021-annual-review-(2023).pdf)

1. フレームワークで設定された調達資金の用途及び適格クライテリアと適合しているか
2. フレームワークで設定された各資金用途カテゴリに対する重要パフォーマンス指標（KPI）の少なくとも一つに則って報告しているか

表 1：資金調達のカテゴリ、適格クライテリア及びインパクト指標

資金調達の カテゴリ	適格クライテリア	インパクト指標
クリーン輸送	電気自動車向けトラクションモータの製造に関連する設備投資及び研究開発費	i. 製造したトラクションモータの年間出荷台数 ii. トラクションモータ導入による CO ₂ 削減量（ガソリンエンジンと比較）

発行体の責任

ニデックは、プロジェクトの概要説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

独立性と品質管理

ESG に関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界を牽引するサステナリティクスは、ニデックの 2019 年グリーンボンド及び 2021 年グリーンボンドによる調達資金の用途を検証しました。本契約の一環として、同社のフレームワークとの適合性の確認のため、ニデックからの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、ニデックから提示された情報と事実に依拠しています。ニデックが不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果については社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）が監督を行いました。

結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果⁸、すべての重要な側面において、審査したプロジェクトが、フレームワークの資金用途クライテリア及びレポーティング指標に適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。ニデックは、サステナリティクスに対し、2024 年 3 月時点で、2019 年グリーンボンドの調達資金の 87.3%、2021 年グリーンボンドの調達資金の 71.4%が充当されていることを開示しました。さらにニデックは、2019 年の第 10

⁸ サステナリティクスの限定保証プロセスには、正確な情報を提供する責任のある、発行体から提供されたプロジェクトの詳細に関する文書の調査が含まれます。これにはプロジェクトの説明、充当額、報告されたインパクトなどを含む場合があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

回及び第 11 回無担保グリーンボンドの残り 12.7%を、それぞれ 2024 年 11 月及び 2026 年 11 月までに充当する予定です。加えて、2021 年グリーンボンドの 28.6%は 2026 年 3 月までに充当される予定です。

調査結果の詳細

表 2：調査結果の詳細

フレームワーク上の要件	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
資金使途クライテリア	選定プロジェクトを対象に、フレームワーク示されている資金使途クライテリアとの適合性を検証。	審査したプロジェクトは資金使途クライテリアに適合していました。	該当なし
レポーティングクライテリア	選定プロジェクトを対象に、インパクトがフレームワークに示されている KPI と適合する形で報告されたかを検証。	審査したプロジェクトにおいて、各資金使途カテゴリーの KPI の少なくとも一つに則って報告されていました。	該当なし

参考資料

2019年11月、ニデックは2019年グリーンボンドを発行して1,000億円を調達しました。以下の選定プロジェクトに調達資金を充当しました。

表3：2019年グリーンボンドの充当状況

調達資金の用途の категория	適格クライテリア	調達資金の充当額 (億円)
クリーン輸送	電気自動車向けトラクションモータの製造 に関連する設備投資及び研究開発費	873
調達資金の充当額合計 (億円) :		873
調達資金の未充当額合計 (億円) :		127

2021年3月、ニデックは2021年グリーンボンドを発行して5億ユーロを調達しました。以下の選定プロジェクトに調達資金を充当しました。

表4：2021年グリーンボンドの充当状況

調達資金の用途の категория	適格クライテリア	調達資金の充当額 (百万ユーロ)
クリーン輸送	電気自動車向けトラクションモータの製造 に関連する設備投資及び研究開発費	357
調達資金の充当額合計 (百万ユーロ) :		357
調達資金の未充当額合計 (百万ユーロ) :		143

2019 年グリーンボンド及び 2021 年グリーンボンドの両方が電気自動車向けトラクションモータの製造に充当されたため、以下の表は累計の報告されたインパクトを示しています。

表 5：累計の報告されたインパクト

調達資金の 用途のカテゴリー	インパクト指標	
	製造したトラクションモータ 年間出荷台数	トラクションモータ導入による CO ₂ 削減量 (t- CO ₂ /年) (ガソリンエンジンとの比較)
クリーン輸送	2019 年度: 48,700	985,208
	2020 年度: 83,273	
	2021 年度: 226,248	
	2022 年度: 337,844	
	2023 年度: 284,451	
	合計: 980,516	